

JP 403242156 A  
OCT 1991

<b>91-359191/49</b> D15 KINO/ 20.02.90 KINO J *JO 3242-156-A 20.02.90-JP-037240 (29.10.91) A45f-03/16 A62c-11 A62c-13/62 C02f-01 <b>Drinking- and fire fighting-water storage bag - comprises handle for water vessel water pouring- and draining-ports and water purifier C91-154968</b>	D(4-A1)
<b>Water bag to store drinking and fire fighting water comprises handle formed at upper part of water vessel, water pouring port formed near handle, water draining port formed near handle and water purifier attached to handle.</b> USE - For provision in event of fire. (3pp Dwg.No.0/3)	

C 1991 DERWENT PUBLICATIONS LTD.  
128, Theobalds Road, London WC1X 8RP, England  
US Office: Derwent Inc., 1313 Dolley Madison Boulevard,  
Suite 401, McLean, VA22101, USA  
Unauthorised copying of this abstract not permitted

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

## ⑫ 公開特許公報(A) 平3-242156

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)10月29日

A 62 C 11/00  
A 45 F 3/16  
A 62 C 13/62  
C 02 F 1/00

B

7231-2E  
7151-2E  
7231-2E  
6525-4D

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全3頁)

⑭ 発明の名称 初期消火用兼飲料用水袋

⑯ 特 願 平2-37240

⑰ 出 願 平2(1990)2月20日

⑱ 発 明 者 旗 野 次 郎 東京都江東区大島3丁目26番1-1118号  
⑱ 発 明 者 旗 野 繁 東京都江東区大島4丁目5番14号  
⑲ 出 願 人 旗 野 次 郎 東京都江東区大島3丁目26番1-1118号  
⑲ 出 願 人 旗 野 繁 東京都江東区大島4丁目5番14号  
⑳ 代 理 人 弁理士 前原 清美

## 明 細 書

## 1 発明の名称

初期消火用兼飲料用水袋

## 2 特許請求の範囲

1) 貯水容器の構造を水袋状構造とし、その水袋構造体の上部位置に把持部を設け、その把持部の位置とは別の位置に注水部分と放水部分を別々に設け、前記把持部の位置に浄水具を取り付けておき、その浄水具の部分が把持することに好適な形状にしてなる初期消火用兼飲料用水袋

2) 把持部に取り付けている浄水具を、使用に際して水袋構造体の注水部分の適宜位置に取り付けることにより、前記浄水具に水を通すことにより飲料或いはその他の利用のため使用に耐えうる水に浄化しうるようにすることを特徴とする特許請求の範囲1記載の初期消火用兼飲料用水袋

3) 浄水具には濾過部と浄化薬品を収納する部分とを設けることを特徴とする特許請求の範囲1記載の初期消火用兼飲料用水袋

## 3 発明の詳細な説明

本願発明は初期消火用兼飲料用水袋に関する。

従来は初期消火のための水袋や砂袋やその他の種々の技術手段による消火装置が提案され、さらに実用化されてきた。

しかし、化学的な面での消火装置は、きわめて消火能力が大きいかれば比較的高価であり、かつ時間の経過とともに消火能力が低落していく欠点があり、そして使用に際して熟練を要する欠点があった。また物理的な面での消火装置は、その使用に際して大きい動力が必要であったり、その設備を構築するにあたり多額の出費を必要とするなどの欠点があった。また、火災等の災害時には、災害が大きくなる前との状態ではきわめて消火し易いが出火してある時間経過後は加速度的に火災の力は増大し、相当の規模の消火能力があっても実際上では消火できるよりむしろ火災の生長力のほうが勝つてしまい手のほどこしやがなくなるものである。特に地震とともに火災が発生する時などは単に火災による被害ばかりでなく、地下などに埋設されている水道管、通信線、送電線など

が破壊されて飲料水の供給が停止され、各種動力時に電力線などに異常が生じると送電不能となり動くべきはずのモーターが停止してその動力に依存する各種動力機械は事実上停止してしまい人間のあらゆる活動に多大な被害と影響を及ぼすこととなり、その復旧作業にも大変な支障を来すことをここで説明を要しないほど重大な結果を招くのである。中でも、水道が破壊されると、給水車等により遠くから飲料に適する水を供給する必要があるが現実には、非常にむずかしい問題が生じることになる。

そのためには罹災後、例え飲料に適さない水によってでも、その水を衛生的に支障のないように改善し浄化してとりあえず正常時の飲料水の代りにして飲用することについて関心をもつ必要が生じるのである。

ところが、そのような事柄について実際は官公庁においてでも適切な対策を立てていない状態であって、個々の家庭単位或いは個人単位では全く無関心というのが実情である。

できるようにし、前記浄水構造体の筒状部分を、その使用に際して、前記注入口2の先端にかけてわずかではあるが細くなるように形成した部分に装着して、外部から前記袋状構造体の内部に外部の水を注入し、飲料に適した水に変質させようようにし、前記袋状構造体の一部となっている放水口3を通して、前記袋状構造体内の水を外部に取り出し飲料に供しようようにしてなり、それとともに前記袋状構造体の内部に常時貯留させている水を火災発生時、初期消火可能な時間の間にすばやく先細り型即ちノズル型の放水口3から火災現場の火の元の部分に、きわめて強い圧力で噴出させて、比較的遠くまで飛び出させようようにした初期消火用兼飲料用水袋である。

なお、放出口2の先端部に形状によって非常に遠くまで噴出させるために噴出口の口径をしぼるとともにその噴出口のところまでの水の案内路を噴状に形成して噴出口の先端部の部分からの噴流の流速をきわめて大きくする工夫がほどこされている口が先端部或いはその先端部に近い位置に造

本願発明はこのような実態の中で如何にして、上述の諸問題を低費用でかつ確実に実際に解決することを目的にするものである。

次に上記目的を達成するための具体的構成を図面に従い説明すると、貯水容器構造体1の全体的形状を互いに対向する二面即ち二側面の構造体にし、その材質は不透水性の高い合成樹脂製水袋状構造体とし、その水袋構造体の上部に位置していて、その一方側に、或いはその一方側に近い位置に注水口2即ち投水口を設け、他方側に放水口3即ち押出口を設け、前記水袋構造体の上部の位置で前記注水口2と放水口3との位置から離れた位置に、水袋構造体の上部の頂上部分に沿って把持部4を形成し、その把持部4の部分に細筒状の把持に適した構造部分を形成し、その細筒状の形状の所に水を浄化する動きのある薬品に装入してなるか或いは物理的に濾過して飲料水に適した水を取り出すためと適切な浄水構造体となし常時は、前記把持部4の部分に形成した筒状構造の部分の中に挿入しておき、必要に応じて取り出すことが

られるように切り口形成用の切り取り用突片5を形成し、その後部位置に流速をわずか減じるが流量を増大しようような、大きい口径の部分の形成をなしうる切り取り用突片6を形成してなるのである。

次に、上記構成から生じる作用効果を述べると貯水容器の構造を水袋状構造としたので、水を取り容していない時にはかさばらないで平たい構造になっており、水を入れることによってその水の量だけ容積を増加させることとなるので外から容器内にどれだけ水が収容されているかを見るだけで確認できる効果がある。また常時は空の水容器つまり単なる平たい袋を用意しておき、必要に応じて容器内に水を入れて放水作業にそなえることができる効果がある。また水袋構造体の上部位置に把持部を設け、その把持部の位置とは別の位置に注水部分と放水部分を設け、前記把持部の位置に取付けた浄水具を使用に際して注水部分に取り付けることによりその浄水具の部分を通して水が移動する時に浄化されるようにしたのできわめて簡

単に浄水処理した水を飲用或いは他の用途に使用しうる効果がある。特に把持部に取り付けた浄水具を把持に好適な形状にしてなるので取り扱いを把持部を単に持っただけでできるので使用者が手をいためたり持ちにくかったりしないでよい効果がある。また浄水具は濾過部9を有するのでフィルターとしての用途に利用できるとともに浄化薬品8も収納してあるので、適切な薬品による浄化処理を可能となる効果がある。

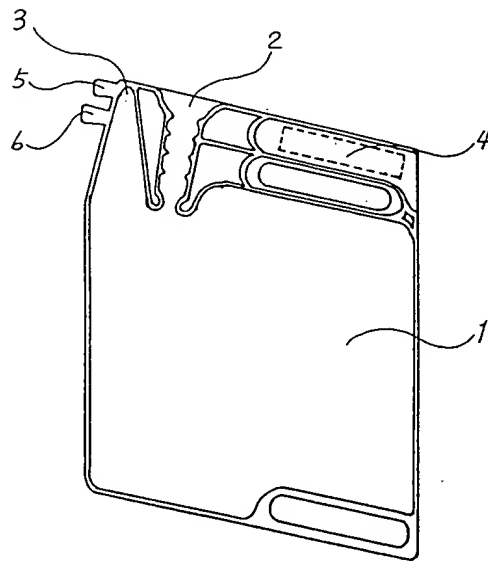
#### 4 図面の簡単な説明

第1図は本発明を施した初期消火用兼飲料用水袋の一部を断面図で示した全体の概念図であり、第2図は浄水装置の濾過部9と浄化薬品8が格納してある概念図であり第3図は浄水作業時の第1図のものの使用状態を示す一部を断面図で示した斜視図である。

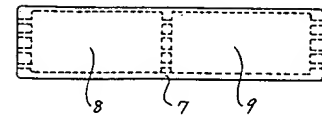
- 1 貯水容器構造体
- 2 注水口
- 3 放水口
- 4 把持部

- 5 切り取り用突片
- 6 切り取り用突片
- 7 浄水装置
- 8 浄化薬品
- 9 濾過部

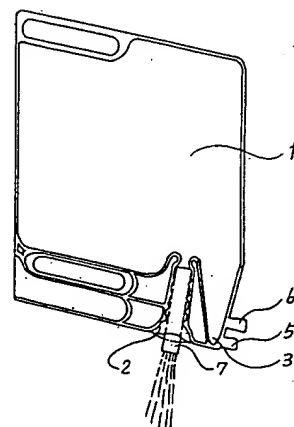
第1図



第2図



第3図



THIS PAGE BLANK (user)